

# the tornado times

INCORPORATING


**DDR 元気創造集団**

社員を巻き込みブランディング



株式会社 水野染工場  
代表取締役社長 水野 弘敏

屋号や家紋を染め抜く「印染」。明治時代より北海道の地で印染業を営む水野染工場で、初代より受け継がれる「現状に満足することが一番リスクだ」という言葉と挑戦する姿勢を今も貫く四代目、水野社長の新たな挑戦に迫ります。



株式会社かぶらやグループ  
名古屋大酒場だるま

かぶらやグループが手がける「名古屋大酒場だるま」が、10年目を迎えて大きくリニューアルされ話題となっている。名古屋めしや食文化だけでなく、観光ともつながった、居酒屋の新たな役割に迫ります。



株式会社 DDR

〒444-0038  
愛知県岡崎市伝馬通2-8  
サカエヤビル3F

DDR MEIEKI STUDIO  
〒453-0016  
愛知県名古屋市中村区竹橋14-2  
ブランド・プラン1階 B号室

Tel. 0564-65-7533  
Fax. 0564-65-7588  
E-mail. info@ddr38.com  
URL. http://www.ddr38.com

JUNE, 2019

## 業務内容と人財をマッチングし 社会に役立つ 組織づくりを目指す 株式会社ワークプライムコントラクト

運送業界は3Kと言われる時代に、快適な環境でIT作業を行うという業務の特殊さから現代の若者たちに受け入れられ、業績を伸ばしている会社がある。精密機械を扱う物流会社などを相手に、IT機器の設定などを一手に引き受ける株式会社ワークプライムコントラクト。価格競争に巻き込まれないよう、人手を確保しにくい専門性の高い業務を付加価値とし、その差別化に成功している。

創業は2006年。人材派遣会社である株式会社ワークヒューマンアシストの社内ベンチャーでスピンアウトした会社としてのスタートだった。当時、派遣先を探す営業として働いていた佐藤重矢子社長が、自ら開拓した大手取引先からの信頼を得て、そこでの業務に特化することに。それが精密機器を扱う物流業者だった。

創業したワークプライムコントラクトでは、物

流会社へ人材を派遣することだけを目的とせず、付加価値となるIT機器の設定業務を、人材派遣業務とは別にして請け負うことで差別化をはかることにした。例えば、大手企業が全社員のパソコンを何百台も入れ替えるとする。パソコンを発送して配送してもらうのはいいが、社員たちがすぐに使えるように設定しておかなければならない。会社によっては特殊なソフトをインストールする必要もあるだろう。

そこでワークプライムコントラクトの人員が、物流会社の倉庫に一旦納められたパソコンを開封して、予めセットアップしておくのだ。物流会社が納品先の社内に運び込んだ後、再びワークプライムコントラクトの人員がパソコンを設置して動作確認まですることも。夜間など限られた時間での現場作業をなるべくスムーズに行うには、倉庫での念入りな設定業務

は欠かせない。そうした倉庫での設定作業と現場での設置作業を、予算に応じて請け負うのだという。

同業者の中には、自社倉庫を持つことで作業を効率化している会社もあるが、あえてお客様である物流会社の倉庫に向かうことにも利点があると佐藤社長は考える。「お客様のビジネスのやり方を理解し、密接に関わりながらやるからこそ、他社にはできないことまでできるようになると考えています。」

取引先は物流会社や大手メーカーだが、エンドユーザーの半分は自治体や官公庁、病院などが名を連ねる。パソコンやIT機器、POSレジなどの精密機器を一度に5,000~10,000台以上の規模で請け負うこともある。

創業当初は、そうした業務を大手派遣会社などの一部門がサービスとしてやることはあるが、専門とする会社はまだなかった。そこにビジネスチャンスを感じたという。

現在、ワークプライムコントラクトは24名の社員と、80名ほどの派遣スタッフやアルバイトが在籍。請け負う業務の規模に応じてスタッフが召集されるが、精密機器の入れ替えという突発的かつ大規模で専門的な業務であるだけに、人材確保が会社の財産となる。

運送業務に含まれる仕事とはいえ、汗をかかような作業は少ない。荷物の開梱や再梱包などは行うが、快適な業務環境で精密機器を扱う作業がメインとなる。これは、ITやゲーム好きのインドア派にはもってこいの仕事だ。俗にニートと

呼ばれる人たちの個性にも着目し、人材として活用できるのではないかと考えた。

「彼らは社会人としての職に欠ける部分はあるかもしれないけれど、人としての常識はあります。仕事でいい加減なことは絶対しない。むしろコツコツと積み上げていく確実さがあるので、作業ミスもほとんどありません。自分と同じような人たちと一緒に仕事ができることで、余計なストレスを感じることなく、やるべきことに集中できるのだと思います。」コミュニケーションが苦手だったり、社会に馴染めない人たちを応援する組織でもありたいと佐藤社長は言う。

一人ひとりの特性を生かした組織づくりと、仕事を通しての人間教育をめざす。「自分は社長ではあるけれど、学校の先生でもあり、彼らの母でもある」と佐藤社長は言う。社会で葛藤する若者たちの居場所となり、自立を支援する側面は、今後の企業の在り方を示している。



**AYAKO SATO**
